



## 「男女共同参画意識調査2016」調査結果の要約(3)

### 【アドバイザー】柘植先生からのコメント(その1)



「男女共同参画意識調査——2016年の結果から——」がまとまりました。調査の企画・実施・まとめを担当された方、調査に協力された方のご努力に敬意を表します。

この結果から、森林研究・整備機構（以下、「森林機構」）の現在と今後の課題を考えてみましょう。

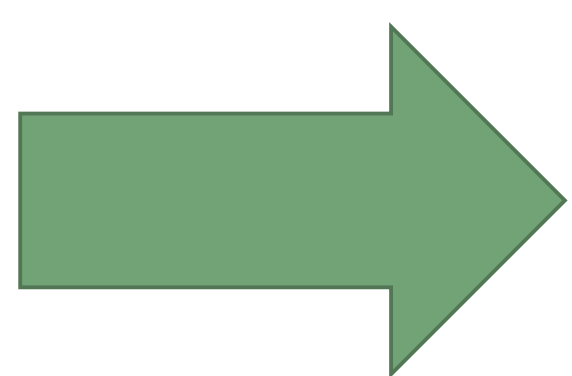
まず、ワーク・ライフ・バランスについて、「仕事」と「家庭生活」のバランス、あるいは「仕事」・「家庭生活」・「地域・個人の生活」のバランスを希望しているという選択が男女ともに多いのは、実際には十分ではなくとも、バランスをとろうとする意志が見えます。ただ**将来にむけての改善を考えるには、現状の課題を明確にするのも必要**です。一般職男性ではかなりの割合で「仕事」優先の生活になっています。また、研究職の女性も男性も、一般職の女性も、「仕事」優先の方と「仕事」と「家庭生活」優先の方が多くを占めています。ただ、「地域・個人の生活」の比重は下がります。この方たちが職場と家庭を中心にした生活で良いと考えているかという、そうではなく、**希望としては「地域・個人の生活」も含めたワーク・ライフ・バランスが望まれている**ことにも注目しましょう。

まず、回答者について、**女性の場合は配偶者が正規職員の方が非常に高い割合になっていますが、男性の場合は、配偶者の働き方は多様です。その分、男性は家庭での役割が稼ぎ手、つまり稼いでこなければならない状況にある人の割合が高くなっています。**それは、ワーク・ライフ・バランスについての考え方や、実際のバランスのとり方に影響を及ぼします。

たとえば、**一般職男性がもっとも「仕事」重視**になっています。一般職男性の配偶者の職業を見ると、もっとも「専業主婦」が多くなっています。一般職男性の「仕事」重視の生活は、一般職女性にも影響していると考えられます。つまり、「仕事」を優先しなければならないという無言のプレッシャーになっている可能性があります。**一般職女性**の希望では、「仕事」だけを優先したいという方は少なく、「仕事」と「家庭生活」の両方を重視するという回答が多いのに、**実際では、「仕事」重視の生活になっているという方が**かなりいます。

**研究職**に限ると、女性も男性も、現状では、「仕事」重視と「仕事」と「家庭生活」の両方重視が分かれています。希望では、**どちらも、「仕事」と「家庭生活」の両方を重視する生活が「仕事」重視よりも圧倒的に多くなっています。**現状では「仕事」重視になってしまっている、ということでしょう。ところが、希望として「仕事」重視を選んだ方が、研究職女性では他の職よりも多くなっています。これも推測ですが、もっと仕事に力も時間も注ぎたいのにそれができないという焦りを反映しているのかもしれません。

**非常勤職員**の方は、性別だけではなく、年齢や、非常勤で働いている理由などが多様なために、まとめるのは難しいですが、「家庭生活」あるいは「家庭生活」と「地域・個人生活」を「仕事」よりも重視したいという希望の方が他の職よりも多くなっています。にもかかわらず**男性の非常勤では現状は「仕事」重視という方も女性非常勤職よりも多くなっています。**



次のポスターへ